



アルミニウムが体に悪いってどんなことなの

「ぼけ」の原因かもしれないと考えられるため

アルミニウムが体に悪いといわれるのは、アルミニウムが、「ぼけ」の原因かもしれないと考えられるためです。

「ぼけ」といわれる病気には、いろいろなものがあり、そのうち、アルミニウムとの関係が研究されているのは、「アルツハイマー病」といわれるものです。

アルミニウムが、「ぼけ」の原因かもしれないと考えられるのは、アルミニウムを多くふくんだ水を飲んでいる地域の人に、アルツハイマー病にかかる人が多いことからです。

アルツハイマー病の人は、脳にふつうにはないたんぱく質がたまって、脳の細胞が死に、発病しているということから、研究では、水にとけたアルミニウムを飲むと血液に入り、脳へ行ったらたまることと、アルツハイマー病の人の脳にたまるたんぱく質が、アルミニウムでかたまることを確かめ、この研究をした人は、アルミニウムが、アルツハイマー病の原因だとして、アルミの食器やなべなどを、使わないように言っているのです。

アルミニウムと「ぼけ」の関係はまだ研究中

しかし、中にはこの説に疑問をもつ人や、反対する人もいます。

それは、ふつう食べ物から口に入るアルミニウムの量が、飲み水やアルミニウムでできたなべなどの、調理器具で作った料理にふくまれるアルミニウムの量の、十倍から十数倍になるからです。

そんなわけで、アルミニウムの食器を使うと、頭がぼけるかどうかということについては、まだ研究中なのです。（監修・保志 宏）

